

3

社会科の学習指導

(社会科教員調査)



1 地理的分野、歴史的分野の授業の進め方

学習指導要領の改訂によって社会科各分野に割り当てられた授業時数は増えている。各学年への配当時間は1学年105時間、2学年105時間と従前とは変わらないが3学年が140時間と大幅な増となったため、各学年における分野ごとの授業の進め方には担当者の工夫が必要となった。

調査結果では1学年、2学年ともに地理的分野（以下 地理）と歴史的分野（以下 歴史）の両分野を扱う割合は91%となっている。

1学年、2学年の地理・歴史の両分野の履修に関しては、学習指導要領の「第2章 第2節 社会」の「第3指導計画の作成と内容の取扱い」の1の(2)において“各分野の履修については、第1、第2学年を通じて地理的分野と歴史的分野を並行して学習させることを原則とし、～”との規定がある。1学年、2学年の授業の進め方については、ほぼこの原則に則って実施されていることが読み取れる。並行で進める場合の地理と歴史の授業の進め方については「1ヶ月、1単元ごとに地歴交互」に扱う割合が約7割で、学習内容や教科書の構成などを勘案すると妥当な結果と思われる。なお、地理・歴史の学習の順序についての規定はないので各学校の実情に応じて適切に工夫することになる。

4月当初の授業では小学校6学年の3学期の学習内容との連続性を考慮したり生徒の要望を取り入れたりする工夫は必要と思われる。その際、小学校の社会科の教科書や地図帳を活用するなどの工夫をすると、生徒の興味・関心に応じた学習活動とすることができ、中学校の学習に対する抵抗感（中1ギャップ）を少なくすることができる。

2 歴史と公民とのかかわりについて

学習指導要領では、歴史の授業時数は130単位時間で、1・2学年に90単位時間、3学年に40単位時間を配当することになっている。2学年でどの時代までを扱うかについての規定はなく、各学校の実態に応じて工夫することになる。

各社の教科書や指導計画を調査してみると2学年末までに扱う内容として「(5)近代の日本と世界」の中項目「エ」（我が国の産業革命等）または「オ」（第一次大戦の背景とその影響等）までとしている例が多い。

3学年の公民の扱いに関する調査結果には「歴史を終わらせてから公民」とする割合は79%である。公民の最初の単元「(1)私たちと現代社会」の「ア」は、1・2学年の地理と歴史の学習で習得した知識や概念、技能を活用する学習活動を重視した目標・内容となっていることから妥当な結果と思われる。

3 多様な学習活動

今回の学習指導要領の改訂に当たって基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、習得した知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を重視しているため、教科書の記述内容も従前とは大きく様変わりしている。社会的事象や事項に関する解説等の記述は従前通りであるが、さらに事象の背景を考察する学習活動や主体的な探究学習への取組みに関する記述が加わっている。考察したり探究学習に取り組んだりするためには教師の指導とともに調べ学習や話し合い学習など生徒が主体的に活動す

る学習を取り入れた多様な学習活動が必要である。

「学習活動」に関する調査結果として78%の教員が4割以上の授業で地図帳を活用している。地図帳に関しては小学校4学年から社会科の授業で扱うことになっている。小学校で身に付けた地図活用の技能を中学校社会科の学習でさらに習熟させることは担当者の重要な役割である。新学習指導要領の地理の「3 内容の取扱い」の(2)のAには“教科用図書「地図」を十分に活用すること。”との指摘がある。なお、地図帳には歴史の教科書で扱っている事項や地名、公民で扱う国際問題や環境問題に関する事象も扱っているので歴史や公民の授業でも活用したい。

「図や表の読み取り」も78%の教員が4割以上の授業で行っている。「図や表の読み取り」は、地理では人々の生活環境や産業の様子を読み取る上で欠かすことができない学習活動であり、歴史においても図表から各時代の特色を読み取る学習は歴史的事象を主体的に考察する上で重要である。

また、思考力・判断力・表現力を育むためには「調べ学習」や「フィールドワーク」、「レポートの作成と発表」など、生徒が主体的に活動する学習活動を重視することになるが、調査結果からは、これらの学習活動に授業時間を充てようとする努力がうかがわれる。クラスの仲間と一緒に学んで学ぶ学習は、生徒の学習への関心・意欲を喚起する上でも重要である。

4 言語活動の充実

今回の学習指導要領の改訂では生徒の学習における言語活動の育成が重視されている。調査結果では「グループでの話し合い」や「自分の意見の発

表」などの言語活動を取り入れている様子がうかがえる。なお、「ワークシートの活用」の割合も多いが、ワークシートは知識の習得とともに生徒自身の意見を表現するツールとしても活用できるので、言語活動の充実、表現能力の向上を図る上で今後一層の工夫改善が期待される。言語活動を重視するねらいは、単に話し合い活動などによって生徒の発言や言語の数を増やすことではなく、「思考力・判断力・表現力」を育むことにある。そのためには、社会の授業を通して、生徒が学習課題を見いだし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切な方法で表現できる学習活動の工夫開発が必要となる。

5 教科指導力の向上について

学校教育法によって学力の要素が規定され、学習指導要領の改訂によって学力の育成が重視されている。こうした状況の中で教科指導力の向上を図ることは教師にとっては重要な課題である。しかし授業時数の増加などによって教師が主体的に研修する時間にはかなりの制約がある。調査結果では「指導の準備にかけられる時間が足りない」と感じる割合(とても感じる+まあ感じる)が89%として表れている。この課題に対処するためには社会科担当者だけの努力では解消困難である。学校管理職を中心として学校をあげて各学校の教育課程を見直す中で、新学習指導要領の総則の「第3 授業時数等の取扱い」の規定を活用して、“時間割の弾力的編成”、“生徒の生活時程”、“1単位時間の運用”などを取り入れて教師の自己研修の時間を生み出す校内の協議が不可欠な取り組みといえる。

DATA① 社会科における学習活動について

2008年度と比べて「グループでの話し合い」が増加。

社会科の授業の中で、「図や表の読み取り」「地図帳の活用」「ワークシートの活用」を授業の7割以上（9割以上＋7～8割の授業で行う）で取り入れているとの回答が4割を超えた（図3-1）。2008年度と比較すると、「グループでの話し合い」を「4割以上」（9割以上＋7～8割＋4～6割の授業で行う）の授業で行っている割合が、2008年度の30.0%から2012年度は36.7%に増えている（図3-2）。

Q 次のような学習活動を、どのくらいの授業で取り入れていますか。

図3-1 取り入れている学習活動（2012年）

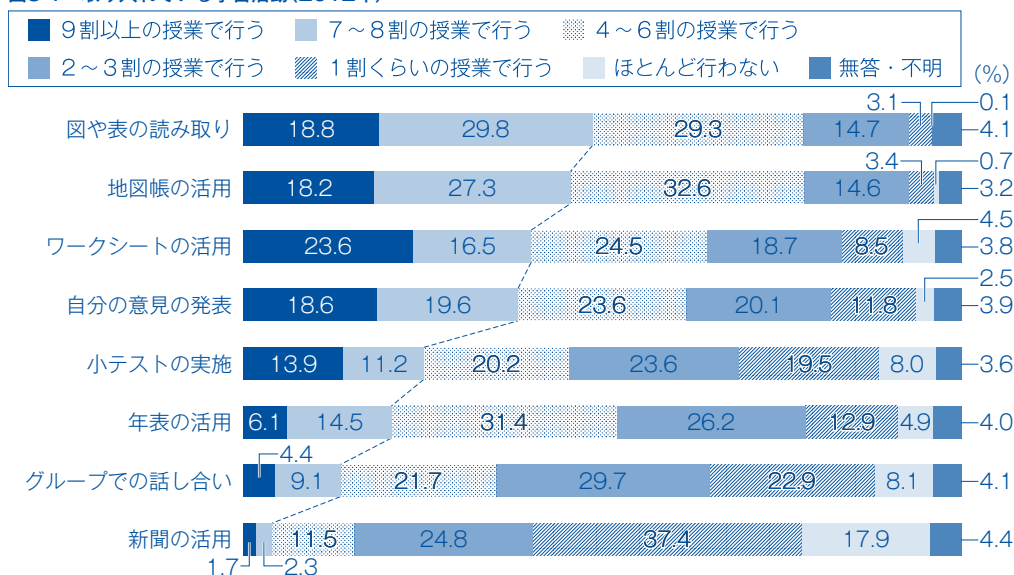
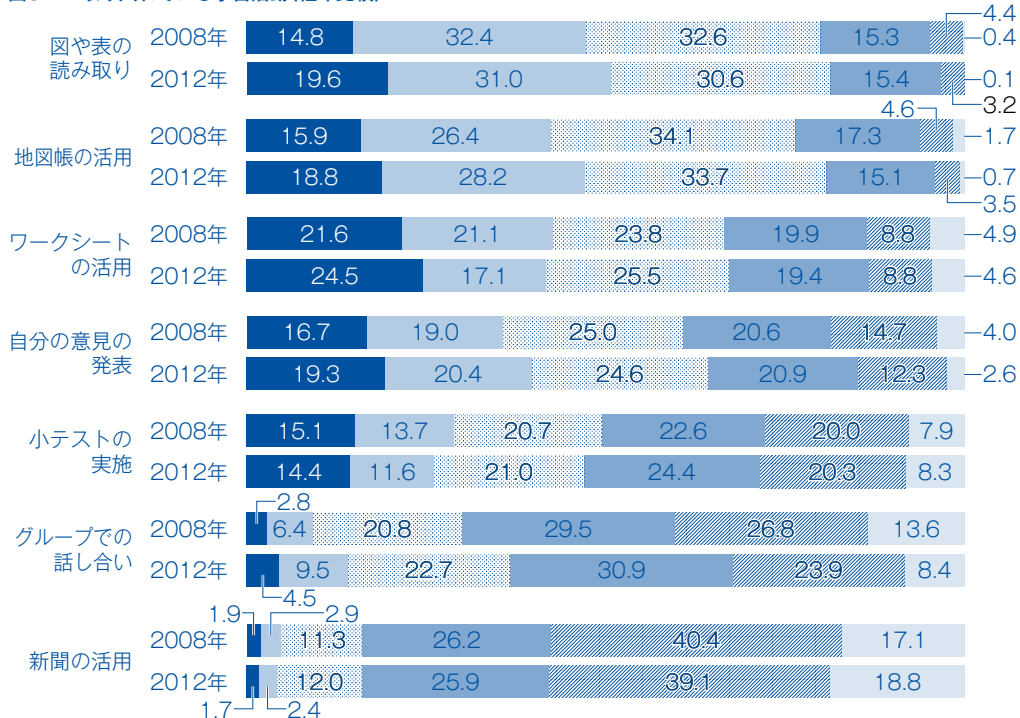


図3-2 取り入れている学習活動（経年比較）



※図3-2については、経年比較のため無答・不明を除外して比率を算出している。
そのため2012年度の値は図3-1とは異なっている。
※グラフの凡例は図3-1に同じ。

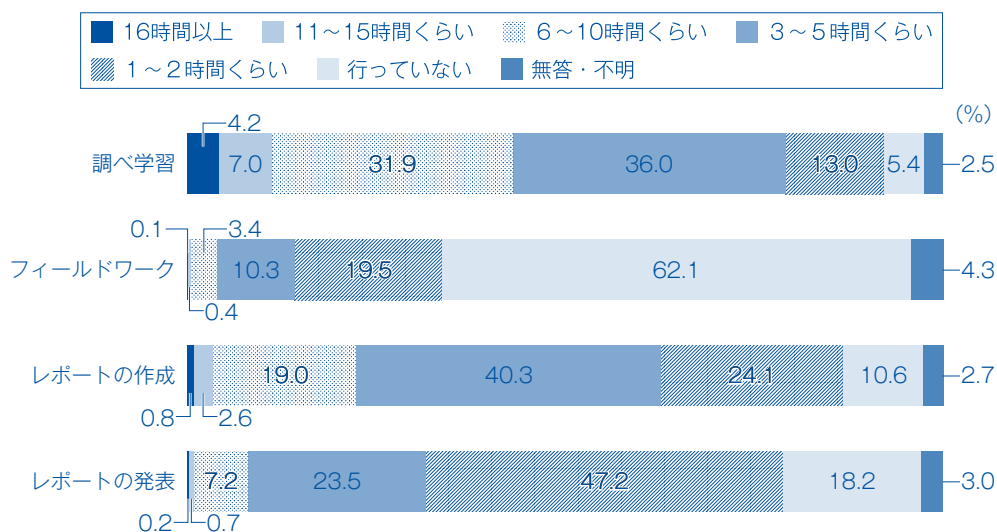
DATA② 探究型学習における学習活動について

「調べ学習」は年間「3～5時間くらい」が36.0%、「フィールドワーク」は「1～2時間くらい」が19.5%で最多。

探究型学習について、学習活動別の年間の実施時間数をたずねた。「調べ学習」は「3～5時間くらい」が36.0%で最も多い。また、「フィールドワーク」を1時間以上行っている（「1～2時間くらい」～「16時間以上」の合計値、以下同）のは3分の1程度で、その中でも「1～2時間くらい」が19.5%と最も多くなっている。また、「レポートの作成」については、86.8%が1時間以上行っており、最も多い時間数は「3～5時間くらい」で40.3%である。「レポートの発表」については、1時間以上行っている割合が78.8%となり、最も多い時間数は「1～2時間くらい」で47.2%となっている。

Q テーマを設定し探究する学習について、次のような学習活動を年間でどのくらい行っていますか。おおよその授業時間数をお答えください。

図3-3 探究型学習における学習活動



DATA③ 日々の指導の中で感じることに

社会科教員の88.8%が「指導の準備にかけられる時間が足りない」、81.0%が「『活用』を中心とした学習時間が十分にとれない」と感じている。

3

社会科の学習指導

日ごろ授業をしていて感じる課題としては、「指導の準備にかけられる時間が足りない」と感じている割合（「とても感じる」＋「まあ感じる」、以下同）が88.8%と高い（図3-4）。「とても感じる」だけでも45.0%にのぼる。経年でみても、2008年度比でほとんど変化がみられない（図3-5）。また、生徒への学習指導に関して「『活用』を中心とした学習時間が十分にとれない」と感じている割合が81.0%と高く、ほぼ4分の1にあたる23.1%が「とても感じる」と回答している。

Q 日ごろ授業をされていて、次のようなことを感じることはありますか。

図3-4 日々の指導の中で感じること（2012年度）

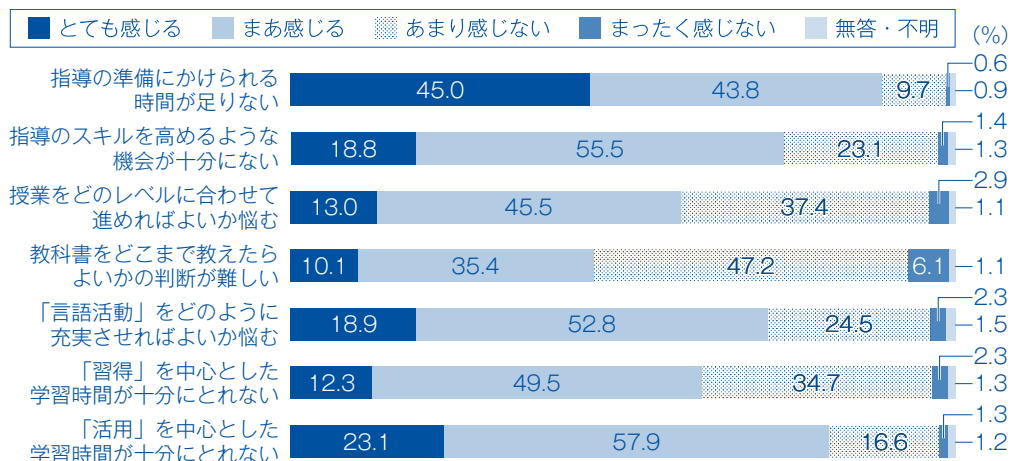
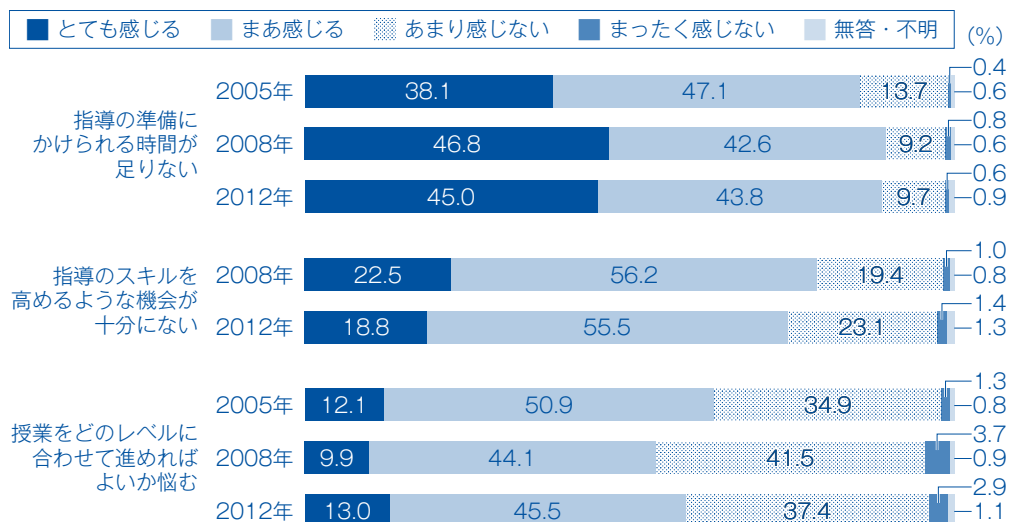


図3-5 日々の指導の中で感じること（経年比較）



※「指導のスキルを高めるような機会が十分でない」は、2005年度調査では聞いていない。

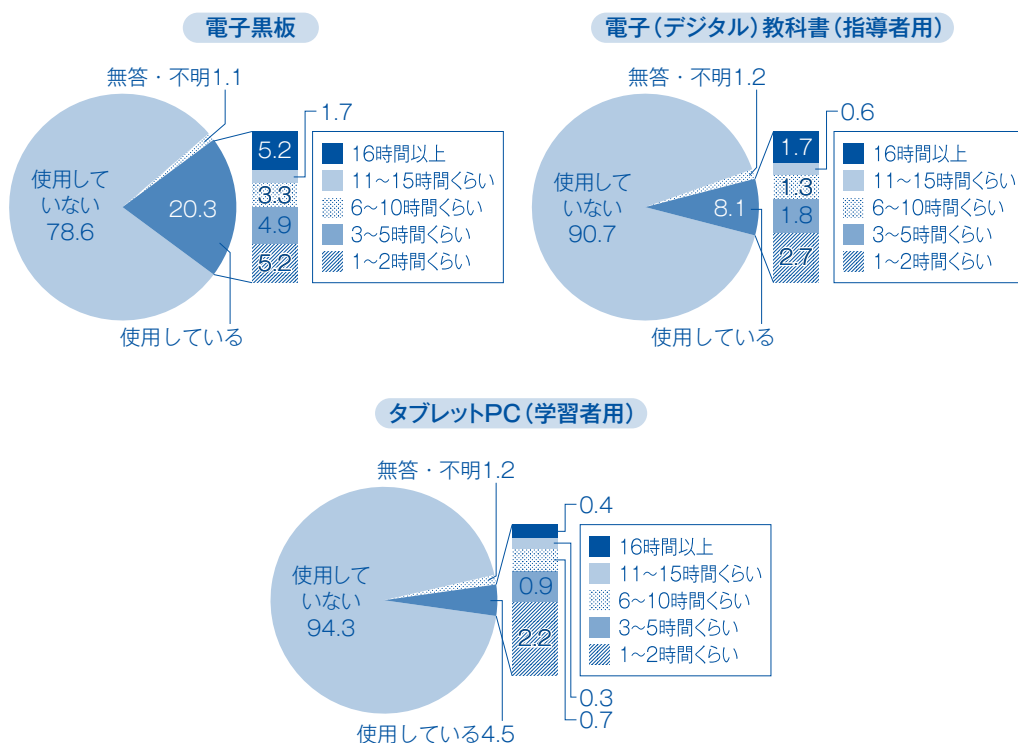
DATA④ 授業でのICTの活用状況

社会科の授業での「電子黒板」の使用率は20.3%、「電子(デジタル)教科書(指導者用)」は8.1%。

社会科の授業でのICTの年間活用時間をたずねたところ、「電子黒板」の使用率が20.3%、「電子(デジタル)教科書(指導者用)」が8.1%、「タブレットPC(学習者用)」は4.5%であった。最も使用率の高い「電子黒板」の内訳をみても、「16時間以上」使用している割合は5.2%であった。

Q 次のツールを年間でどれくらい活用していますか。おおよその授業時間数をお答えください。

図3-6 ICTツールの活用時間



DATA⑤ 授業の進め方

地理と歴史の進め方はパイ型が91%。

授業の進め方については、パイ型が1年生91.2%、2年生90.7%と多数を占めている。ザブトン型は1割弱で、1年生に「地理」、2年生に「歴史」を扱うパターンがほとんどである。また、パイ型で進める場合の地理と歴史の進め方については、「1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う」が最も多く、1年生71.2%、2年生67.6%であった。次年度の3年生の授業の進め方は「歴史を終わらせてから公民を行う」が79.3%と最も多い。「公民のみ行う」との回答も6.2%あったが、その多くは私立の学校であった。

Q 中学1年生(中学2年生)では、どのように授業を進める予定ですか。

図3-7 授業の進め方



※「パイ型」… π の記号のように、地理と歴史を1年間のうちにともに学習すること。

「ザブトン型」…座布団を重ねるように、学年によって1年間地理または歴史のどちらか一方のみを学習すること。

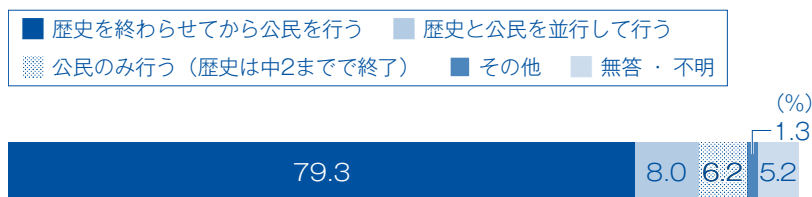
Q 【「パイ型」と回答した場合のみ】地理と歴史をどのように扱いますか。

表3-1 地理と歴史の扱い方

	1年生	2年生
1週間の授業時間で地理・歴史をどちらも行う	6.4%	5.8%
1～2週間ごとに、地理・歴史を交互に行う	0.6%	0.8%
1ヶ月や1単元の区切りごとに地理・歴史を交互に行う	71.2%	67.6%
定期テストごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	8.3%	7.7%
学期ごとに、地理・歴史を入れ替えて行う	2.5%	3.3%
1年を前半後半に分けて、地理・歴史を交互に行う	11.0%	14.8%

Q 次年度(平成25年度)の3年生の授業の進め方について、最も近いものを1つだけお選びください。

図3-8 次年度の3年生の授業の進め方



※2年生担当の教員のみの。